

# 「製品認証取得の会員紹介」③

## 西日本発電機株式会社・本社工場

### ★創業の経緯について

ニシハツの名称で知られる防災用発電装置メーカーである「西日本発電機株式会社（豊森尚文社長）」は福岡市から西へ約60kmの佐賀県唐津市千々賀140にある。本社工場は2004年（平成16年）5月10日付けで内発協の製品認証を取得した。今年で創業44年目を迎えた同社は、1963年（昭和38年）10月11日、佐賀県唐津市二夕子町に設立された。設立時の資本金300万円。初代社長には吉丸憲太郎氏が就任した。船用補機（発電機）や集魚灯など船用周辺機器の製造・販売を手掛ける小さな工場からスタートした同社は現在、東京・大阪・名古屋・福岡・鹿児島に営業所を設置して全国で発電装置の販売を展開している。

### ★陸用部門への進出

陸用部門へ進出する転機となったのは、1965年（昭和40年）3月、直流溶接用発電機「ニシハツウエルダー」の開発によって始まる。エンジン溶接機の製造・販売を契機として、建設工事現場などで使用される同じくディーゼルエンジンを搭載した可搬形発電設備の開発・販売にも着手し、事業拡大へとつなげていった。

商品ラインナップの拡充による事業の発展に伴い、1967年（昭和42年）4月、東京営業所を開設した。また、その頃から、アジアに近い九州という地の利を活かして東南アジアや中近東向けに可搬形発電設備、溶接機の輸出事業も展開していった。当時の主力輸出商品は、小形のディーゼルエンジン発電機（3～20kVA）、エンジン溶接機（180～300A）で、海外のユーザーの間でも「ニシハツブランド」は次第に広く浸透し周知されるようになった。

### ★非常用発電装置の開発について

西日本発電機の地元、九州地方では温暖な気候を利用した養鰻業、養鶏業が古くから盛んな土地柄で、同社ではそうした養殖事業者向けにポンプやファンの予備電源として発電装置の供給を行ってきた。

一方、九州地方では毎年の台風による停電も多く、時には長時間にわたる停電により、養殖事業場や公共施設が被害に見舞われることもあったという。そのため、同社は停電対応策として、1972年（昭和47年）に自動起動式の非常用発電装置を独自に開発し、養殖事業場や各種官庁施設向けに積極的な売り込みを図っていった。

その後、国内では消防法の改正が施行され、それに伴い、防災用発電装置の需要拡大が見込まれることを受けて、

1975年（昭和50年）7月、内発協が実施する自家用発電設備認定制度（当時）に基づく工場認定及び形式認定を取得した。以降は、消防法適合の非常用自家発電装置の本格的な生産・販売に注力し、今日まで続く発電装置事業の基礎を確立していった。

### ★高まる予備電源装置への需要

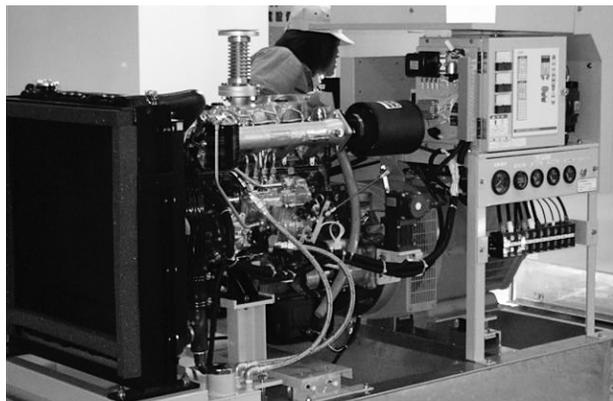
西日本発電機は同社の主力商品となった、自家発電装置の製造・販売事業のさらなる事業拡大を旨とし、1980年（昭和55年）10月、現在地の唐津市千々賀140に本社並びに本社工場を新築し生産施設の規模拡充を図った。生産施設として、本社社屋に隣接する本社工場のA棟～E棟の5棟があり、板金、製缶、塗装、組み立て、制御機器の製造・搭載、発電装置の運転試験までを自社で一貫生産を行っている。本社工場での生産能力の規模拡大により、防災用自家発電装置に加え、商品構成も次第に増えていった。

1987年（昭和62年）12月には九州電力㈱向けに送電を止めずに送電線工事が行える無停電工用「50kVA特殊発電装置」を開発し、87年以降も毎年継続して納入している。現在では75kVA、100kVAの移動電源車のスタイルを採用している。その後、高圧タイプの移動電源車も開発し、300kVA、500kVAのタイプも供給している。また、90年（平成2年）に阪和興業㈱（大阪市）からの資本を受け入れ資本金を5,000万円に増資した。大阪圏内へも販路拡大を旨とした。

西日本発電機によれば、現在、顧客からのニーズが高い商品は、金融機関、病院施設、放送施設及び中継局、官庁施設に設置され、コンピューターやオンライン端末機、医療・精密機器の予備電源（バックアップ用電源）として使用される定電圧・定周波・低波形歪率の高性能発電装置「単相非常用自家発電装置」で、販売台数を順調に伸ばしている。

### ★第二の創業期へ

西日本発電機では、2002年（平成14年）11月にISO9001の認証を、06年（平成18年）11月に内発協の自家発電装置Lクラス（500kW超～1,000kW以下）の認証をそれぞれ取得している。これにより、同社では大形機種も取り扱い、豊富な実績を誇る自家発電装置の販売拡充を図る。また、07年（平成19年）6月、可搬形発電設備トップメーカーのデンヨー㈱が全株式を取得し子会社とした。西日本発電機では第二の創業期と位置づけ、今後定置式と移動式の両方を取り扱うことで「発電装置事業の相乗効果」を期待している。



ニシハツのブランドで信頼を得ている発電装置



セットを待つキュービクル